

少子化対策について

平成16年に生まれた子供が4年連続で減り今までの最小となった。女性一人が産む平均数の出生率（合計特殊出生率）も1・29と発表され日本の少子化もくつきり表れてきている。

御前崎市での出生率は県平均値より上回っている。しかし将来人口推計では10年後2、130人、30年後9、100人の減少、また50年後には人口が半減する予測がされている。人口減と高齢者の増加、年少者の減少により生産人口が益々減り、市運営へも支障をきたす事が予測される。少子化対策を早急に対応する事が求められている状況である。

問 夫婦の出生力の低下として育児コストの負担が考えられる。経済支援策として児童手当及び医療費制度の充実についてどう考えているのか伺う

答 児童手当について今後の改訂の動向を注視したい。医療費助成事業等は近隣市町と調整するなか総合的見地で

検討する。

問 保育所の受け入れ態勢が万全でない事や入園させたい希望者が入れない事など育児サービスの促進策を伺う

答 延長保育のニーズは益々増加すると予測している。朝7時30分から夕方6時30分で実施している。これ以上の要望はない。希望者が増加する予測もあるので体制を整えなければならぬ。

問 女性の就業や男性の育児参加、子供が病気時における看病支援の病児保育について伺う

答 育児休業と父親の子育て参加については市内事業所に育児休暇の取得など子育てについて協力いただくパンフレットの配布など情報提供を行う。

病児保育については医療的な側面が強い施設でありすぐ出来ない。必要度や他の乳幼児施設とのバランスを考慮したい。

教科書採択について

問 今年は、来年度から4年間継続して使用される中学校の教科書採択が行われる年です。教科書採択は8月31日までに終了しなければなりません。採択に当たって、どのような手続きを経て採択されるのか。また、どのような調査・研究を行い、どのようなことを重視し採択されるのか

答 御前崎市の中学校で使用される教科書の採択権は、御前崎市の教育委員会にあります。小笠地区の場合は、3市（御前崎・菊川・掛川）で共同採択をしています。そのため、3市の教育長、校長代表、保護者代表で構成される「小笠地区教科書図書採択連絡協議会」を設け、この連絡協議会で採択案を作成し3市の教育委員会へ建議する方法をと

っています。

採択案は、各教科について専門的な立場で研究できる校長や教員の代表（小笠地区教科書研究委員会）に委嘱し採択のための資料づくりを行っています。すべての教科書について、専門的な立場で比較検討し、子供達に最も適している教科書を選定し、連絡協議会に研究結果を報告します。連絡協議会は、この報告を十分協議し採択案を作成します。教育委員はこの採択案の報告を受け地区にふさわしいか審議します。各委員は事前に教科書について学習し、住民の意見書にも目を通し、採択案が最もふさわしいと審議されれば同意書を連絡協議会に提出し、御前崎市としての教科書採択が成立します。

